

審査員による選評



小松 修 審査員
画家・現代童画会常任委員

今回の応募作品の第一印象は、作品の質の高さ、アイデアの面白さ、表現の新しさです。それぞれ独特のストーリーを持ち、イメージを膨らませ、楽しませてくれます。心の中に湧き上がる想いをストレートにかつ素朴に表現し、画面からイメージがあふれています。

大賞作品 小倉宗さん「妖怪ぱくぱく」は、子ども達の心の中にうごめく怖い夢をどんどん食べて退治してくれるたのしい妖怪が主人公です。真中にオドロ可愛い妖怪をインパクト強く配し、表現方法も多種工夫して秀逸です。奥行をもって妖怪の世界を拓けているのも素適で、透明色も効果的です。今後も独自の世界表現を深めてくれることを期待します。

最優秀賞作品 大瀧千絵さん「小法師の昔語り」は、一見古民家の天井を思わせる木造りの空間を漂うこけし風の妖精達。窓の外は現代の風景、浮いて漂うのは民話風の人形たち。独特の世界観を醸し出す中で、どんなストーリーが展開してゆくのか、非常に興味深いです。人形一つ一つが色々な昔話を夜毎に聞かせることでしょう。

優秀賞作品 山本いつこさん「Voyage」は、明るい広々とした空を大きくくじらが悠々と泳いでいる。ゆったりとした力強い背中が、安心の大地を感じさせます。くじらを大胆に切りとった構図で、雄大さを表現したり、明るい空気の渦や小鳥型の飛行機を飛ばすことで、広々とした空間表現したりと隅々まで工夫された力作です。

それぞれ表現方法がテーマは違っても独自のアイデア、工夫がなされ、素晴らしい作品です。今後の作品に期待します。



猪爪 彦一 審査員
画家・行動美術協会会員

初めて越後湯沢全国童画展の審査をさせていただきました。応募作品が広げられた会場で、この中から入選受賞を決めるのは大変だなと身が引き締まる気持ちでした。

何回か作品を見直しているうちに出品者の表現したいことなどが感じられるようになり、こちらも冷静になって選ぶことが出来ました。

応募作品点数は去年より少し減りましたが内容的にはとても充実していて技術的にもレベルが高いと思います。

近頃の騒然とした世の中で童画というテーマで作品を制作するのはとても難しいことです。表面的でありきたりの内容の作品ではなかなか入選できないようです。

大賞の「妖怪ぱくぱく」小倉宗さんの作品は、モチーフを中央に大きく置き、まわりにおかしな妖怪をちりばめたとてもインパクトのある作品です。紫、青、緑の配色のバランスが巧みで、それらが黒いバックから浮かびあがる効果はこのテーマにふさわしく、ちょっとユーモラスな主役の表情に心惹かれました。

最優秀賞の「小法師の昔語り」大瀧千絵さんの作品は、起き上がり小法師たちが部屋の中いっばいに広がりダンスをしているようでとてもほほえましく、茶系の色調の空間に渋い赤と青の衣の人形が懐かしい子どもの頃の田舎の雰囲気を作り出しています。

優秀賞の「Voyage」山本いつこさんの作品は、白い空間に大きくくじらの頭部が軽々と浮かんでいる様子を愛情豊かに表現しました。背中には日常生活を送る街並みが描かれ、何気無いようで、それでもなにより大切な平和な暮らしを伝えたいという思いが伝わってきます。

その他入賞、入選された作品はそれぞれ個性のある力作でした。惜しくも選外になった作品はもうちょっとというところでした。次回もう一度チャレンジしてみてください。

特集

かわらばん

トピックス

情報

生活

学園

生涯学習
スポーツ

健康・医療

観光